令和8年度文京区アカデミー推進協議会
第3回分科会(国内・国際交流分野)概要記録

日　　時	令和8年9月16日(水)　18:21～19:21
会　　場	文京シビックセンター17階　福利健康会議室
出　席　委　員	山田徹雄委員◎、佐伯晃委員、細谷はるか委員、川又靖則委員、 相澤みどり委員（座長◎）
欠　席　委　員	山田健一委員、那須晴吾委員、樋口晃委員
事　　務　　局	長塚アカデミー推進部長、吉本アカデミー推進課長、 白杉観光・都市交流担当課長、大武都市交流担当主査、 吉田都市交流担当主査
資　　料	次第、資料第1号　国内・国際交流分野の施策（案）、資料第2号　文京区アカデミー推進計画の点検・評価について、資料第3号　令和7年度文京区アカデミー推進計画の点検・評価（案）
（議事） 1　議題 ○委員意見 ◆事務局説明	1．国内・国際交流分野の施策（案）について 分科会資料第1号に基づき、国内・国際交流分野の施策（案）について説明。 ○分野間連携による幅広いアプローチや、SNS・ホームページを活用した分かりやすい情報発信が評価できる。ボランティアや町内会等を通じた外国人との交流機会の拡大、地域への参加推進の取組は非常によい。 ○全体的に見やすく、分かりやすい構成である。 ◆分野間の連携を今後も進めていく。 ○物産展等の経済効果を踏まえ、外国人も含め買い物がしやすい商店街づくりを進めたい。地域の実情に即したルールの啓発が必要である。 ○整理された分かりやすい表現である。買い物だけでなく、生活面も含めた「地域ルールブック」を作成するとよいと思う。 ◆ゴミ出し等のルール周知も含め、在住外国人との相互理解に注力したい。 ◎この施策（案）については、全員一致で原案のとおり承認とする。 2．アカデミー推進計画の点検・評価について

	分科会資料第2号・第3号に基づき、令和7年度文京区アカデミー推進計画の点検・評価について説明。 (1)分野別基本方針① 国内交流自治体との交流促進と相互発展について ○都市交流フェスタでのブース売り上げ・来場者増加を評価する。協定等締結10周年などの節目での大規模イベントは、自治体間の関係性を再確認するよい機会である。 ○個人では訪れる機会の少ない自治体と交流できる貴重な機会であり、今後も継続してほしい。 ○都市交流フェスタでのラクーア協力による3会場化や、災害時における熊本県八代市ふるさと納税窓口の代行など、国に先駆けた迅速な自治体間連携を高く評価する。 ○来場者8,000人増加という結果を称賛する。魅力的な会場設定等が、交流促進に寄与しているため、継続を期待する。 ○会場増による回遊性向上や区の人口増加傾向等を踏まえると、区の魅力を周知することで、更なる来場者増加が期待できる。 ◎指標にある認知度の目標設定が高すぎる可能性があるのではないか。 ◆協定の根底にある住民間の交流から繋がる災害時の相互支援等が重要である。都市交流フェスタについては、区外からのイベント来場者も一定数存在するため、区民に対する更なる広報施策が今後の課題である。 ◎この方針の点検・評価内容について、委員の意見等を勘案し、了承とする。 (2)分野別基本方針② 国際理解の定着に向けた機会づくりについて ○人々の往来やスポーツ・文化など、多様な切り口で継続的に自治体間交流を実施している点が大変よい。 ○盛んな交流事業への取組に感銘を受けた。イベントや節目の取組を、区民へ確実に周知・徹底する方法はあるか。 ◆協定締結時や節目のイベントは、区報やSNS・HP等で発信している。目に止まりやすい周知への工夫を継続する。

	○国の情勢に左右されない「都市間交流」だからこそ、手助けや交流が円滑に進みやすい。 ◆国家間の調整は難しくても、自治体間の担当者レベルでは調整しやすい。今後も壁を作らず、多角的な交流を展開したい。 ○学校活動の中で教員からの話や、給食時間の放送等を活用し、教育現場を通じて、こどもたちにも話題を提供することが重要である。 ◆交流のある自治体の食材を学校給食で提供している。 ◎この方針における取組を全体として高く評価し、内容を承認する。 (3)分野別基本方針③ 外国人が活躍できる環境づくりについて ○災害発生時など、日本語での情報伝達が必要となる場面を想定し、「やさしい日本語」を学ぶ講座の継続を希望する。 ○公共施設の外国人利用の広がりを踏まえ、施設内の案内表示等にも「やさしい日本語」を使用してほしい。外国人にも「やさしい日本語」を学ぶ講座に参加するなどしてもらうのと同時に、日本人も外国人の理解促進への働きかけが必要と考える。 ○外国人事業者が増加傾向にある。受け入れ側が歓迎の姿勢を示し、行事や商店会等に巻き込むなどの交流から、ルールの周知と相互理解が進む。 ○「活躍」の定義を整理したい。言語の習得のみならず、日本の文化・歴史・生活習慣や日本人の気持ちを理解する支援が重要である。 ○コンビニ等で働く外国人の姿も地域社会における「活躍」の一環と考える。 ◆「活躍」には、外国人自らが災害時に活動することや言語対応も含まれる。外国人をいかに地域に取り込むか。「やさしい日本語」等の活用を通じて多文化共生を推進していく。 ◎工業地域の労働力確保と異なり、文京区は教育・文化資源を活かした外国人の受け入れと特徴がある。様々な区の取組が区民へ十分届いていないため周知に課題がある。出された意見等を踏まえて評価を作成する。
2 閉会	